農業への歩み

玉名支部　　井上　誠己

　祖父の世代から米、みかん、イチゴ、スイカといった農作物栽培に取り組んできた我が家は、祖父、祖母、父、母の４人で、周囲の方達からモンスター生産者と呼ばれていました。三度の飯より仕事好き。熱があっても、どぎゃん体調が悪くても、地べたを這いつくばってでも畑に出てこいと言わんばかりの頑固者の祖父。そんな祖父は８人姉弟の末っ子で口癖が「がまださなん！」
ただ・・・それだけ。

　小さい頃から、休みの日は毎日、畑に連れ出され、昼間に友人と遊ぶ事も少なく、中学に通い始める頃には、学校を休んで手伝えと言われるようになった。嫌々ながらに手伝ってはいたが、農業という仕事に興味も湧かず「遊びたい」という気持ちが強かった。夜遅くに友人と公園に集まり、駄弁る時間が何よりの癒しになっていました。

　農業高校へ進学しましたが、家を継ぐつもりは全くなく、家から逃げるように陸上自衛隊、半導体会社と就職しました。肉体面と精神面を鍛えながら、そして、製造業という何かを組み立てるという仕事に魅力を感じました。しかし、どちらも私の事を名前ではなく、番号で呼ばれるような会社でした。どんなに人望が厚くても、毎年新入社員に追い抜かれていく、そんな人間にはなりたくない。人の上に立ちたい、という気持ちが芽生え始めました。

　人生には３つの喜びがあると思います。
１つは自分が生まれた日。
２つ目は結婚。
３つ目は我が子の誕生です。このような家庭に、このような形で生まれたいと思っても叶いませんし、決められません。ただ、２つ目の「結婚」だけは１つ目と３つ目に比べ、自分で決める事のできるたった１つの喜びだと私は思います。今では妻と２人の子供にも恵まれ、家族を養っていく責任感も強くなりました。

　私が３０歳になったある日、転機が訪れました。父が体調を崩し、仕事が出来なくなりました。
「このまま誰も管理しなくなったら、水田や畑は荒れ果て、山になるだろう。自分が継いでやっ

てみる価値はあるのでは？」と考えるようになりました。恥ずかしながら警察のお世話になった過去もたくさんあり、親や親戚、周りの方にもたくさん迷惑をかけた分、自分が継いで今まで以上により良くしたい、安心させたいと思い就農しました。それが、私なりの恩返しだと感じたからです。周囲の方達からは、「よか後継者の出来たね。」と言われ、家族皆嬉しそうな顔をしていました。

就農してから６年目になりますが、昨年仕事好きだった祖父も亡くなり、今では母と２人で、みかん３ha、米３ha を栽培しています。手伝いをしていた頃から、「どういう理屈でこうなる」と教えてもらった事が無い為、自分で考え、勉強しながらの毎日にとてもやりがいを感じています。自分の家のやり方、周りのやり方を、畑を見て周り、良いと感じた所は積極的に取り組むようにしました。みかんの剪定のやり方、考え方も人それぞれ違い、おもしろいと感じました。見た事、聞いた事、それを応用した剪定も取り組み最中です。昔は「立ち枝は親の敵」と、切っていたそうです。しかし私は、立ち枝は活かせるのではと考え、この切り上げ剪定に目をつけ、取り組み始めました。この切り上げ剪定を取り組み始めて、今までと明らかに違うと思った事があります。
１つは花と芽の両方がバランス良くきて、有葉花になりやすい事です。
２つ目は根が活性化し、木の樹勢が弱らない事。
３つ目は隔年結果しにくい木になる事です。まだ全部の面積までは手がいき届いてないのですが、何の作物にしても「仕立て」は重要です。また、根と葉を大事にしなければ作物は育ちません。そして何より大事だと感じている事は土壌造りです。化学肥料は扱い方が難しく、自分が思ったような結果にならない事もあり、カキ殻石灰、植物性のポカシ肥をやるようにしました。微生物と競合したやり方でなければ必ずしっぺ返しがくるからです。

最近私は、「ほどほど」という言葉を覚えました。遊び、酒、タバコ、そして仕事です。体が健康でなければ何もできません。小さい頃から遊園地などに連れて行ってもらった事が少なかったせいか、子供にはそんな思いをさせたくないと思っています。現代の農業は後継者不足であり、日本の食料自給率は３８％と先進国の中では最低基準です。食べたくても食べられないといった貧困を無くしたいと考えています。そして、子供は日本の未来を担う「大切な卵」です。その小さな芽を摘み取ってしまわぬよう、日本の食料自給率向上を目標に、私は祖父の意思を次世代へと繋げようと思います。
最後に、私を育ててくれた親、支えてくれた全ての方々に「感謝」の気持ちを忘れず、農業に励みたいと思います。